

～梅雨対策の知恵、あれこれ～

さて、6月です。梅雨入りの時期になってきました。今月は「梅雨対策」について記事をまとめましたのでお役立て頂ければと思います。

～梅雨といえば、湿気＝カビ！～

恵みの雨もたらす梅雨。そんな梅雨ゆえの雨天、そして湿気るからこそ生え、増えるカビ！ですが、高温多湿な日本の気候でカビから完全に逃れる術というのは、無いのでは・・・。

“カビが全くない住まいは存在し得ない”と言っても過言ではないのです。

カビそのものの種類は数万種にのぼるものの、普通の家庭で見られるカビはそのうち30種程度だそうです。さらに大別すると、

- ①お風呂場などで頻繁に見る「黒カビ」
- ②水周り全般にある「赤カビ（酵母）」
- ③カビ臭いニオイの原因「青カビ」

に分かれます。



カビは、私たちの目で見つけられた時点で既にコロニー（集落）化しており、多くの胞子を有して繁殖が激化しています。発見したまま見逃すことは住まい環境をより悪化させることになるため、極力避けなければなりません。

とはいえ、いちいち完全防備での掃除などできない時にオススメなのが「消毒用エタノール」スプレーです。

カビを見つけたら、すかさずこのスプレーを噴霧したボロ布（ウエス、乾いたもの）で拭き、再度カビにスプレーして綺麗なボロ布で拭き取ります。

拭いた布はビニール袋などに密封して捨てる様にしてください。

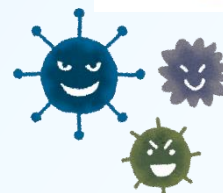
～カビの「えさ」を放置しない！～

カビにとっての最適環境は「気温28度前後、湿度80%」と言われています。

この環境だと、どんなに掃除を行き届かせてもカビは生え、エサは手のひらから出る皮脂、洗剤や建材まで幅広くあります。

あからさまなカビのエサとは即ち、住まいの汚れ全般のことです。

梅雨～真夏の季節はなるべく平素の掃除の頻度を増やすように心がけたいところです。



気をつけたいカビ発生場所

- ・お風呂場全体、排水口
- ・洗面器の裏
- ・トイレの便器周辺

～「カビ」の快適環境を作らないこと！～

「蒸す」とか「ジメジメする」と私たちが体感するときの湿度は概ね70%を越えているそうです。そう感じたときに実際に湿度計が何%を指しているのか、まめに確認する習慣を持つことが梅雨どきのカビ予防をより強化する事につながります。

カビと湿度（水分）の関係は不可分ですので、湿度が70%を切って65～60%まで落ちるだけでもカビの繁殖は抑制されます。

梅雨とは言っても晴れ間の屋外の湿度はぐっと下がりますので、折を見ての自然換気。そしてエアコンのドライ機能や冷房によっても室内の湿度は容易に下げられます。

住まい内のいろいろな箇所に温湿度計を設置して湿度をまめにチェックし、なるべく60%前後に維持することが、カビにとっての快適環境を維持しないことにつながります。



気をつけたいカビ発生場所

- ・「帰って寝る」だけの部屋（の澱んだ空気）
- ・洗濯待ちの汚れ物が入った洗濯機（槽）
- ・干さない布団の入っている押入れ、ベッドの下

～部屋干しの注意点～

普段使っていない部屋だからと言って、特に和室で洗濯物の部屋干しをするのはオススメできません。

部屋干しをすると、室内の湿度が急激に上がり、カビが生えやすくなります。特に和室は自然素材が多く使われているため、カビが生えやすい環境にあります。

また、和室の塗り壁のカビは一旦生えてしまうと、なかなか退治することができません。壁の上塗りを剥がし、塗り直しをするのが一番の早道となりますので、この点は要注意です。



浴室乾燥機や専用の屋内物干し場があるご家庭ならよいのですが、ない場合は居住空間に洗濯物を干すことになりがちです。室内干しした洗濯物を早く乾燥させるために、扇風機を使って風をあてても効果がありますが、よりスポット的に風を送ることができるサーキュレーターを使う方法がより効果的です。

扇風機は基本的に人に対して風を送り、涼を得ることを目的としており、室内の空気を循環させることを目的としたサーキュレーターは、上下の首振り機能は上向き90度まで可能です。このことで天井に向けて強力な風を送り、室内の空気を循環させてより効率的に洗濯物を乾かすことが出来ます。これにより、湿気上昇を抑える事にもつながります。



「お持ちの土地や建物
評価してみませんか??」

おかげさまでこのところ、
売物件が不足しております・・・

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～



マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628



<http://maruhiro2103.co.jp>